

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300432		
法人名	特定非営利活動法人 三山の家		
事業所名	グループホーム元気村		
所在地	埼玉県本庄市田中105番地1		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成25年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「ゆっくり・のんびり・おだやかに」を踏まえつつ、日々の生活の中で利用者様それぞれの持ちうる力を探り、また発揮して頂き、出来る事を増やし、行って頂いている。余暇活動として家事のお手伝いや工作等のレクリエーション、定期的な慰問、散歩や外出の機会も取り入れ、認知症の進行を抑える為、ご利用者に良い刺激を受けていただけるように努めている、食事は手作りのものを、その時の旬や好みに合わせ、また栄養面、食べ易さや分かり易さに配慮し提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・グループホームは、利用者が生活する場であるとの認識から、予定を優先させることなく利用者に物事を最後まで完結していただく支援がなされている。また、利用者をせかせさない、大声を出さない、就寝前は穏やかな時間を過ごしていただくなどの理念に基づいた実践が、日常生活の各場面で行われている。
 ・ご家族アンケートでも、「とても明るく良い所です。私どもが行くと美味しい料理のおかげで・・・食事がとても美味しいとの事。必ずお茶を出してくれ、家族的に迎えてくれます。」「まめに電話をいただける為、入居後1週間ですがあまり心配な点はない」などのコメントがあり、ご家族が現在のサービスに満足されていることが見受けられる。
 ・目標達成計画の達成状況については、外出のリスクに慎重になりすぎた傾向が改められ、散歩等が増えたことや家族の協力の申し出を得て外食や外出の機会が多くなったことで利用者にも喜ばれており、目標達成への取り組みが進んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いままでの理念を踏襲し、会議等でその都度確認しつつケアに取り組んでいる。	「ゆっくり、のんびり、穏やかに」の理念を踏まえ、利用者をせかせかせない、大声を出さない、就寝前は穏やかな時間を過ごしていただくためにホットミルクが提供されるなどの実践が、日常生活の場面で行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方に野菜を頂いたり、地域のボランティアの方の慰問などといった交流がある。今後は地域の活動へもホームで積極的に参加していきたいと考えている。	近隣の住民から収穫された野菜をいただいたり、草むしりなどの地域の活動に参加するなど、双方向の交流を通じて、事業所への理解を深められてもらえるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場で、認知症についての意見を取り交わすなどすると共に、地域の中での認知症に関係する相談役を担えればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価については勿論のこと、その他行事報告やケアの方向性といった議題で意見を頂いている。ご家族や地域の方、行政から頂いた意見はホームの現状に照らし、取り入れている。	事業所や利用者の現状報告の他、感染症対策や今後の地域との関わり方に関する意見交換などが行われている。会議が回を重ねることで活発になり、定期的な開催へ向けての環境が整えられつつある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月初めに利用状況報告のFAXを送る他、担当課からのメールや、各種報告等でも窓口を訪ねる機会があり、協力して頂いている。	市担当者には運営推進会議に参加いただき、意見をいただく他、利用者の状況報告や相談、月末の空き室情報の交換が行われるなど、協力関係が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除マニュアル」に沿って、身体拘束を行わないのは勿論だが、「心理的拘束」も行わない様、言葉遣い等にも注意を払っている。	「身体拘束ゼロへの手引」に基き、職員会議などで、身体拘束の弊害の周知・確認が行われており、利用者の自由な動きを制止することなく、身体拘束をしないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを準備し周知すると共に、言語での虐待等、具体的にどんな状況が虐待にあたるかも常に確認し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加やマニュアル等で学ぶ機会を設け、また過去のホームでの事例も参考に、活用できるようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以外にも、見学相談及び事前の訪問時や請求書に同封の通知等でお知らせし、ご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろの生活の中での要望やご家族の面会時、またプラン作成時についてもご意見・ご要望をうかがっている。ホーム内に苦情ポストを設置している。	利用者とは、夜間などに1対1の時間を作って、ゆっくり思いや要望を聴き、家族からは、来所時に話を聴く機会を設け、出された意見や要望は、検討を経て運営に活かされている。	日頃の利用者の生活ぶりや事業所の取り組みなどを、家族に積極的にアピールするなど、お互いの関わりを強め、理解を深めるための施策を進めることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の職員会議の他にも、日常の業務内で意見を聞き、ご利用者個々の状況やホームの現状等と照らし合わせ、反映している。	管理者は、日頃から職員との会話を増やし、意見が出やすい環境が作られている。また、ケアや運営に関わる意見やアイデアが、職員会議を中心に議論され、サービスの向上に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り就業形態について無理のないように配慮しつつ、提案や意見を聞いている。またグループホームでケアを行っていく事の意義について職員個々に学ぶ機会を設け、やりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や実力に合わせて、基礎研修ほか受講して貰っている。それ以外にも関連書籍等で学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所と合同研修会を開催し参加する事によって、交流及び情報交換の機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り早い段階でご本人及びご家族にアセスメントを行い情報を集めている。その後ケアの方向性等要望の実現への取り組みについて一緒に検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	できる限り早い段階でご本人及びご家族にアセスメントを行い情報を集めている。その後ケアの方向性等要望の実現への取り組みについて一緒に検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学相談時や事前訪問、他事業所及び機関からの情報提供でグループホームとして対応可能かどうか見極め、お伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を共に探りつつ、またその力を発揮してもらい、出来る限りその人らしい生活が営めるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診等でご本人との時間を確保して頂いている他、その際に生活状況も報告し今後のケアに繋がるよう一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、知人・友人の面会もあり、また正月や連休等で帰省される方もいる。	友人・知人の来訪も多く、来られた場合は、利用者とゆっくり過ごしていただける環境が作られている。また、正月や連休に帰宅される方には、薬や生活上の注意など、安心して帰宅していただける支援がなされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人同士の相性等鑑みつつ、座席配置や行事参加に反映している。ただ、支え合う段階まで関わりあえている方は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次の施設への連絡等、相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り個別に意向を探り、ケアの方向性を決めていきたいが、なかなかご自分の意見を訴えられない方も多く、職員も学びの中から考えてはいるが、難しい。	利用者とは、夜間や入浴時など利用して1対1の時間を作って、職歴や生活歴をヒトにゆつく話を聴き、思いや要望を捉えている。得られた情報は生活記録に記載し、本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族はもとより、知人・友人や関係機関各所から出来得る限りの情報を集めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に得た情報や入念な観察を基に、個別に把握し、ケアの方向性を決定している。。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録等でご本人から、面会時やその他の集まりの際にご家族からと、意見を伺い介護計画に反映している。	利用者担当を中心に利用者の状況や家族の要望などを集約し、それを基に計画作成担当者により現状に即した介護計画が作成されている。また、毎月のモニタリングが実施され、3ヶ月に1回の見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個々にケース記録を毎日記載・保管し、そこから日常業務の中及び職員会議等の場で話し合いを持ち、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして対応可能な限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力はもとより、近隣の方やボランティアの方々などと関係を持ち支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診はご家族対応で、希望のかかりつけ医に受診していただいている。	入居前からのかかりつけ医の受診が家族の協力により継続されている。また、必要に応じて、協力医との連携も図られており、適切な医療を受けることのできる支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員がいないため行っていない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関・関係者とは入退居時や定期的な受診時ほかでのの情報提供や、その他情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にグループホームの役割をお伝えしている。また、具体的には要介護3になった時をめぐり、ご本人・ご家族に次の段階(特養等)への移行について準備・心構えをお願いしている。	入居時に終末期に対する事業所の方針を利用者と家族に伝え理解をいただいている。重度化した場合は、利用者の状況に応じてできる範囲の対応がなされ、退所後の施設などの提案もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを準備し職員同士共有している他、日常業務内や職員会議でも緊急時についての話し合いを持ち、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を行っている他、先の震災やグループホーム火災等を教訓とし、対応を学んでいる。今後はご家族や地域の方にも訓練への協力をお願いする予定。	消防署の協力を得ての1回と事業所単独での1回の年2回の避難訓練を行うと共に、今後は、夜間想定避難訓練や近隣住民との合同訓練の実施について検討がなされている。	災害発生は予測不可能なことで職員だけの避難誘導には限界があると想定されることから、地震対策も含めて、地域との協力を進められることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者各々にその生活歴や環境等に配慮し、命令する・子供扱いする等が無いよう、適切な対応を行っている。	利用者が他人に知られたいくないことには、知られないように配慮がなされている。また、どんなに親しくても友達ではないとの意識を持って、入居前の生活環境を尊重し、尊厳を守ることに注意が払われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自分からの訴えが難しい方には、職員側から伺ってみる、選択肢を提示してみるといったように、なるべく自己決定が出来るような環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活のペースを把握しつつ、他の方への影響等にも配慮し、出来る限りその人らしい生活が出来るよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や整髪等ご自分でできる方には行って貰い、そうでない方には職員が対応している。衣類等もご自分で選択できる方には行って貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備や下膳等、出来る方には手伝って頂いている。	献立を特に決めず、食材は利用者と一緒に買い出し行き、できることは手伝っていただきながら調理が行われている。食事前に今日の献立の由来を説明するなど、食事が楽しめる演出もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた摂取し易い食事形態や量を把握し、また食材やメニューも日々工夫している。水分も出来る限り摂取していただけるよう、好み等の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には行って頂いている。そうでない方にも声かけや介助で口腔内の清潔を保って貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者それぞれの訴えやサインを見逃さず、そうでない方でも定時でのトイレ介助を行い、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう心がけている。	利用者一人ひとりのサインやタイミングを見逃さず、適切な声かけと誘導により、トイレでの排泄を原則とした自立支援がなされている。下剤を止めて、運動により排便が改善された例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材の使用で食生活面から、また毎日の日課としてラジオ体操を取り入れるほか、なるべく日中も散歩や屋内での運動をしていただき便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日がある程度決まっているが、その中から順番等でご希望を伺いつつ不平等にならないように配慮している。	週3回の入浴が可能であり、同性介助を基本とした支援が行われている。習慣やこだわりを配慮することで入浴拒否者にも対応し、自立された利用者には見守りを行うことで、安全・安心に入浴を楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や安全な照明への配慮、就寝前に穏やかな時間を作る、午後にはカフェインを含む飲料を控える、また日中の活動を通して自然な生活リズムが保てるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々の服薬表の備えに加え服薬事典も用意し、職員が常に確認できる状況がある。また頓服薬の服用があった際には記録及び申し送りで状態変化の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や余暇活動等、お一人おひとりに合わせた役割を持っていただき、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者が散歩や買い物等に出かけられるように、職員体制を整えている。また、ご家族と外出する方もいる。	外出のリスクに慎重になりすぎていた傾向を改め、散歩を増やすなど、外に出て気分転換をしていただくことを進めている。また、家族の協力の申し出を得て、外食や外出の頻度が多くなり、利用者にも喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ご利用者自身でもホームでも、トラブルを避ける為、金銭管理を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望がある方には、取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居室の目印、安全に配慮した照明、なじみのある歌やBGMを流す等している。季節感のある飾りも取り入れている。また慰問やレクリエーション等の写真も掲示しており過ごしやすい空間作りに努めている。	行事の写真や利用者と職員が共同で作った季節感のある作品が飾られ、馴染みのあるBGMが流されるなど、目と耳を楽しませる共用空間が作られている。また、職員と手伝える利用者により清掃がなされ、居室共々清潔な居住空間が維持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の居室やソファ、玄関のベンチ等、それぞれの居場所を選んでいただけるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面への配慮をしつつ、今まで使用していた家財道具等を持ち込んでいただいている。	入口には暖簾や花飾りがかけられ、室内は動きの妨げにならない限り、馴染みのものや畳に炬燵など、自由に置いていただき、自分の居場所としての居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーの造りになっている他、各所に手すりやバーを設置、また共有空間内に様々な掲示や目印を付けている。職員の見守り・必要に応じた介助も行いつつ、安全に配慮している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム元気村

作成日: 平成 25年 4月 15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者様のご家族にホーム側から皆様の日ごろの生活ぶりや取り組みの現状等を知っていただけていない	ご家族とホーム双方がより関わりを強め、積極的に情報交換し理解し合えるような環境を築いていく	毎月ホーム側からご家族へ、担当職員それぞれが利用者様の様子等お伝えする手紙を書いているが、それに加えて、月替わりのテーマで意見や要望を伺っていく	ヶ月
2	35	ホームとして年2回の防災訓練は行っているものの、地域の方への案内をしておらず、訓練への参加協力も依頼していない	防災訓練に地域の方も参加していただき、利用者様の状況を知っていただくと共に、災害発生時には避難誘導等で協力してもらいたい	防災訓練についての通知を自治会の回覧板で回して貰い、地域の方々に取り組みの現状を知っていただくと共に、だんだんと訓練にも参加いただけるよう案内していく	ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。